

「男女平等社会をめざして～わたしたちの意識の中から考える～」

わたしたちにとって社会とは、性別や年齢に関わりなく、誰もが協力し合いながら作り上げていくものです。そして、個々の違いを認め合い、その存在は尊重され、個人の持つ能力を出し合って生きていくことで、男女平等の社会が実現されていくものと思っています。

しかしながら、わたしたちの意識や生活の中には、まだまだ社会的、文化的にすり込まれてきた性差*が残っています。

たとえば、定年後の生活設計です。1986年に、男女雇用機会均等法が施行されたこともあり、結婚や出産後も働き続ける女性が増えています。ところが、女性は男性より平均寿命が長いにもかかわらず、定年をむかえた女性の再就職の受け皿は、男性に比べて少ないなどと言われています。

今後は、性別に関わりなく、特に女性が社会に参画し、女性が得意とする感覚（笑顔・共感力・柔軟性など）が加わることで、「競争する社会」から「協力し合う社会」に変わり、また、「男女平等社会」という課題テーマから「個々の能力を伸ばす」という課題テーマへと移っていくのではないのでしょうか。

わたしたちの意識にすり込まれている性差を、自らが気づくことにより、男女平等社会の実現と豊かな社会を築きたいものです。

*性差：男女の性別による違い。生物学的な違いだけでなく、職業適性や価値志向の違いなどの社会的・心理的差異。

※このコラムは、男女平等推進事業企画・運営協力員が執筆しています。

（次回は1月号に掲載します。）

